

学修支援センター企画「ふしぎ探検隊」② レポート

5月9日（金）にはタンポポのふしぎを探検しました。タンポポはキク科、花は一つ一つの花が200個ほども集まっている、綿毛でタネを散布する、根が長い、タンポポとアザミが仲間であることなどを知り、お隣の山形県の名産ベニ花はキク科だがどんな花を咲かせるか、どんなタネを作るかが知りたくなりました。

そこで、5月23日（金）18時～19時00まで学修支援センターにおいて、「ベニ花を植えよう！」と題し、ベニ花の種を植えました。2名の学生が参加し、スコップやジョウロを手で活動してくれました。その一端を紹介します。



<1. プランターに土をつくる>

- ・ベニ花のまき時は4月ですが、まだ大丈夫と思い、まず蒔き床を作りました。
- ・ベニ花は直根なのでプランターはできるだけ深い方がよいということでした。それで底が深いものを購入しました。土は市販のプランター用培養土にしました。
- ・底には、鉢底石の代わりに、赤玉土（大粒）を敷き、その上に培養土を入れました。



<2. 草取りをする>

プランターを置く場所を確保しましたが、そこはスギナのジャングル。仕方なくスギナがいっぱいの地面をきれいにしました。スギナは2重に地下茎があるからまた生えるよね、などと会話しながら、草取りです。その途中でみみずと遭遇。それでももくもくと草を取り続けるみなさん。慣れたものです。



<3. 種をまく>

- ・スコップで 2 列に浅く線をひき、そこにばらばらと種をおいていきます。発芽後間引くことを考え、少し厚めに、なるべく重ならないように、まきました。
- ・まいた後の土を埋め戻し、さらに1 cmくらい土をかけ足しました。
- ・覆土したら水やりです。たっぷりとジョウロで水をかけました。



<4. 新聞をかぶせて保温する>

乾燥をふせぐため、新聞紙をかぶせます。かぶせた上からもたっぷりと水をかけて終了です。新聞紙は保湿と保温のために使ってみました。



<5. おさらい>

室内に戻ってベニ花のおさらいです。
種は、植物の赤ちゃん（胚珠）・お弁当（赤ちゃんのお弁当）・赤ちゃんの着物（種皮）からできています。お弁当にはデンプン（お米や小麦など）、タンパク質（大豆など）、油（ゴマ、ベニ花など）、などの栄養がいっぱい。人間は、赤ちゃんのための栄養を横取りしていることを学びました。

☆次回はもやしを育ててみようということになりました。